

【取組分野・活動実績シート】		
1. 基本情報		
大学名・学部名・学科名	神奈川大学・建築学部・建築学科	
研究室 代表者名	六角研究室 ・ 六角美瑠	
研究室代表者の専門分野	建築デザイン	
研究室の学生数	27名	
活動可能エリア	全国	
関連ホームページ	名称	URL
	六角研究室公式HP	https://rokkakulab.notion.site/top
	六角研究室公式Instagram	https://www.instagram.com/rokkaku_lab/
2. 地域課題解決に向けた取組分野		
● 観光	(地域遺産のリサーチ。まちのシンボルの設計・製作。地域の資産を活用した企画と実施(事例：タウンアート) 住民とのまちづくり活動。特産物の直売所のデザイン設計と展示販売。)	
● 移住・定住・関係人口	(空き家再生。土地と建築物が持つ歴史を継承した居住空間の実施設計。)	
農林水産業	(	
起業支援	(	
● まちなか再生	(商店街の活性化・空き家空き店舗改修活用。地域の資産を活用した企画(タウンアート)の計画と実行。研究室サテライトを構築し学生が地域に加わり、地域連携の活動を行う。)	
集落再生	(	
環境	(	
その他	(	
3. 活動実績		
【活動実績①】 (1)活動地 : 宮城県 大崎市 岩出山町 (2)活動内容:「まちのイベントと空き家改修によるサテライト計画」 五感をテーマとした体験型施設「感覚ミュージアム」のある宮城県大崎市岩出山において、「まちそのものをミュージアムに」という構想のもと、地域住民や企業と連携しながら、学生とともに継続的なまちづくり活動に取り組んでいる。まちを舞台とした「岩出山タウンアート」を企画・実施したほか、有備館駅から感覚ミュージアムまでの川沿いを、地域住民とともに制作した約200個の提灯で照らす「岩出山 de ナイト 光の感覚の道」を企画・運営した。また、企業との協働による耐水性提灯のデザイン開発や、地域住民が参加するワークショップなどを通して、地域資源を活かした参加型のまちづくりを展開している。現在は、こうした活動を一過性のイベントにとどめず継続していくため、地域と大学・研究室を結ぶサテライト拠点の整備を進めている。商店街の空き家を活用し、学生自らが地域の方々と関わりながら計画・設計・施工を行い、まちに新たな活動と交流を生み出す拠点づくりに取り組んでいる。 (3)活動による成果: 一連の活動を通して、「感覚ミュージアム」を観光施設としてだけでなく、地域に根ざし、市民とともに活動を育てていく文化拠点として捉え直す契機をつくることができた。また、ミュージアムの活動を館内にとどめず、商店街や川沿いなど、まち全体へと広げることで、地域住民と来訪者が岩出山の風景や歴史、暮らしの魅力を再発見し、交流する場を創出した。「岩出山 de ナイト 光の感覚の道」では、株式会社ワロンとの協働により、ワロン耐水シートを用いた新たな提灯をデザイン開発し、地域住民とのワークショップを通して約200個を制作し、様々なイベントに貸し出され継続したまちづくり活動のアイテムとして活用されている。地域住民・大学・企業がそれぞれの知識や技術を持ち寄りながら、一つのまちの風景をつくり出す協働の仕組みを実践することができた。さらに、昨年は地域住民の協力のもと、商店街に残る「蔵」や「土間」を開放し、岩出山の「時間の流れ」をコンセプトとして地域遺産活かしまちを彩る「タウンアート」を実施した。こうした活動を継続することで、「まちそのものをミュージアムに」という「岩出山タウンアート構想」を具体化するとともに、一過性のイベントの開催だけでなく、空き家改修によるサテライト拠点づくりへと発展させている。		
【活動実績②】 (1)活動地 : 神奈川県 横須賀市 鴨居町 (2)活動内容:「農家との連携、直売小屋の設計」 三浦半島を拠点に、生産者である農家と消費者(地域住民やイベント参加者)を繋ぎ、コミュニケーションを活性化させる野菜の販売小屋を設計し、農業と地域の振興を目指した活動を行っている(2023年から継続)。学生が主体的に協力農家を探すところからリサーチを行い、農家と消費者の距離感や廃棄野菜の増加といった地域課題に着目し、生産者と地域住民を繋ぐコミュニケーションの場として農作物の収穫を祝う神興型の人力で運べる野菜小屋「新嘗神興」を翌年には、お籠型の運べる野菜小屋の提案・設計・制作を行った。 (3)活動による成果: 協力農家の農作物の種蒔きから関わることで、農家との交流やコミュニケーションを図り、実情を伺うことからリサーチすることで、より実践な視点でデザインを検討することができる。3Dモデルや各種模型による詳細な機能検討を経て実物の「新嘗神興」を制作し、横須賀美術館にて直売所を兼ねたアート展示企画(Koyart)に参加し学生自らが地域住民に野菜販売を行うことで、野菜の展示販売什器と祭りの祭具を融合させた新たな地域活性化の取り組みの場を展開した。現在では丸ビルのイベントに出展したり、地方のまちづくりにも活用している。毎年展示を行い、形を変え継続して農家と地域住民とを結び付けている。		
【活動実績③】 (1)活動地 : 群馬県 千代田町 (2)活動内容:「まちのシンボルの製作」 かつて光恩寺に存在した「蓮池」の復元とともに、その水辺に祀られる「弁天堂」を地域の新たなシンボルとして計画・設計している。東京藝術大学金田研究室(構造)と神奈川大学六角研究室が連携し、木材を積み重ねて構成する木造組積造による新たなお堂の実現を目指している。制作は学生によるセルフビルドを主体とし、木材の切削から施工まで一連の工程に取り組んでいる。数百本に及ぶ木材を正確に組み上げるため、部材の識別方法や施工用の専用治具を開発するとともに、1/1スケール(実寸)のモックアップによる仮組みを行い、構法や施工手順の検証を重ねている。今年度の建立を目指し、現在も制作を進めている。また、お堂単体の建設にとどまらず、庭師とも連携し、蓮池と弁天堂を中心とした浄土庭園空間を整備することで、地域の歴史や文化を継承しながら、新たな風景と交流を生み出す場の創出を計画している。 (3)活動による成果 木材の発注・加工から組み上げまでを学生自身が担うことで、設計を実際の建築として成立させるための実践的な技術力を培うことができた。Shopbotの活用により、データ入力からの2軸デジタル加工などを取り入れ、原寸スケールで制作・検証を行うことで、材料の特性や構法、施工手順を身体的に理解することができた。単なるモニュメントではなく、人が関わり、場や空間を生み出す建築としてデザインする視点を身につける機会となっている。また、東京藝術大学金田研究室(構造)との連携や、庭師をはじめとする専門家、地域関係者との協働を通して、異なる専門性を持つ人々と課題を共有し、一つの建築を実現していく実践的な協働のプロセスを経験している。さらに、かつて地域に存在した蓮池を復元し、新たな弁天堂と浄土庭園を整備することで、地域の記憶や歴史を受け継ぎながら、新たな地域のシンボルとなる場所を創出する取り組みへと発展している。		
4. 研究室卒業生の地方での活動状況		
・六角研究室で培った実践型の研究手法・フィールドワークのノウハウを生かし、地域課題の現場に根ざした建築およびまちづくり活動を展開している。 ・宮城県気仙沼市にて非営利団体のフリースクールと連携し、「建築と教育」を結びつけた実践的プログラムを実施。子どもたちの主体性を引き出しながら、従来の教育の枠を超える空間・居場所づくりを共に推進している。 ・同市八日町のシャッター街を拠点に若者たちの地域組織を結成し、持続可能な地域活動を通じて、市外・県外からの集客および関係人口創出に向けた新たな取り組みを模索・実践している。		
5. 希望する活動内容		
・空き家改修＋地域拠点の構築 ・地域資産(農業等)/遺産(蔵等の活用)の活用設計提案 ・農業等の産業の活性化(モバイル屋台等の環境装置の設計) ・観光・地域イベントの計画(ワークショップの開催) ・歴史文化を継承した地域シンボルの設計 ・風土を活かした観光拠点の設計(農作物を活かした「まち食堂」等) ・地域ネットワークを巡る拠点の設計		